



## 「真実一路」を求めて

宝崎 錠二先生【美唄】

今回は、現美唄歯科医師会会長、宝崎錠二先生をご紹介します（日本歯科大学昭和37年次卒、昭和38年美唄市開業、67歳）。

先生のカラオケ十八番は、知る人ぞ知る、「夢追い酒」で、直立不動、マイクをしっかりと握りしめ、情感を込め、かつ几帳面に歌う所に、そのロマンチストであり、何事につけ真面目に事にあたれば済まないという、ご性格がよくあらわれているようです。

悲しさ 紛らす この酒を 月♪

誰が名付けた 夢追い酒と…月♪

順風満帆と思われる人生を送ってこられた先生の胸に去来するものは一体何なののでしょうか。

先生は、昭和6年に札幌の山鼻にお生まれになり、幼少の頃を過ごされました。父上の転勤で、樺太（今のサハリン）豊原市に13年間居住し、終戦の8月15日に美唄在中のご親戚を頼り引き揚げてこられたとの事。その経緯は、6歳年長の姉上、幸子先生（昭和28年より、美唄市にて開業）の人物紹介（平成5年10月号道歯会通信、雨田 実先生筆）に詳しいが、相当のご苦勞があったようです。先生はよく、戦後における価値観の変化が、ご自分に与えた影響の大きさを指摘されておられます。また、一時期、公務員生活を経て歯科医人生を歩む事になった経験から、歯科界特有の物の考え方と、実社会に生きる人々、即ち患者諸氏と

の間に生ずる乖離を懸念され、そのギャップを埋めようと絶えず心がけ努力され、開業人生を送ってこられたようです。また、今日程、社会の needs をよりこの歯科界に反映させなければならない時、先生のそういった大衆と共にあり、公平と公正を心がけようとするお考えは、貴重でタイムリーに人を得たといえましょう。

平成9年から、美唄歯科医師会会長としての忙しさの中に、年来のご趣味である旅行の時間の工面も大変なようです。実際、本当の趣味は仕事そのものなのですが、奥様といつもご一緒の海外・国内の旅行と美術鑑賞を楽しむ息抜きも大事にされておられます。日本酒の杯を傾け、ニューヨーク、イタリア、シンガポール、バリ等での旅の回想にふける先生は実に楽しそうです。

奥様の父上は、香月光一先生（札幌市開業）で、先年、功勞並びに終身会員として道歯より表彰されました。実姉に宝崎幸子先生（前述）、妹、明美様は館 正幸先生（札幌市開業）夫人。お二人のお子様も歯科医であり、かつ歯科医のもとに嫁がれておられます。先生の一層のご自愛とご活躍が期待されております。

（小森英世記）